

2025年
(令和7年)

3月7日

金曜日

知・技の創造

ものづくり大学発

▷112◁

墓地の近代史を専門として
いる土居は、昨秋に開講され
た本学主催の市民特別公開講
座「お甲いの近現代」に登壇
し好評を得ました。と書きま
す。こそではないものの、
半分の側面しかお伝えできて
いません。この公開講座には
ゲストとして落語家の林家つ
る子氏をお迎えし、お甲いに
ちなんだ「片棒」を演じてい
ただきました。当日、つる子
氏のファン（追っかけ）らし
き来場者もおられ、つる子氏
の出番である第一部では爆笑
の連続でしたので、続く第2
部に登壇した土居は、会場全
体が温かい雰囲気の中、とて

男は、それぞれが思い描く、
赤西屋の身代にふさわしい立
派な（派手な）葬式を提案す
るが、ケチな大旦那は気に入
らない。打って変わって三男
が示す内容は、ケチの見本の
ような葬式の段取りばかり。
最初こそギョッとした大旦那、
次第にそのケチ振りを感

落語には、伝統的常識のう
を済ませてしまえば、香典た
うやく120年ほど過ぎたな
どなど、落語演目「片棒」へ
の注釈あるいは副音声解説と
して、トークタイムでコメン
トいたしました。

中でも一番の論点は、なぜ
跡継ぎが男子だけに想定され
るのか、の問題です。つる子
氏は、古典落語を女性目線で
描き直す挑戦をしておられる
ので、どうしても伺いたかつ
たのですが、残念ながら当日
は時間切れで言及のみになら
りました。現時点では、赤西屋
が一代で身代を築いたことに
関係すると考えています。い
うなれば、成り上がり者が漠
然と抱く伝統的常識です。そ
の常識を成り上りの者がどう
獲得したのか。伝統的常識の
とされる儀礼が誕生してよ
う再生産問題です。

土居 浩 教養教育センター教授

落語が描く伝統的常識

心するよう。ついには棺桶
を運ぶ際に、天秤棒は三男自
身で担ぎますと言いつつも、
の、しまった天秤棒にはもう
一人必要だから、これはかり
は人を雇わないといけない、
と残念がる始末。そこで大旦那、
「片棒は、俺が担ぐ」で
オチになります。



とい・ひろし 博士（学術・総合研究大学院大学）。も
のづくり大学教授。2001年、大学開学時から着任。関
心領域は、日常意識論。